

世界道路協会（PIARC）道路統計委員会

World Road Association (PIARC): Activities of the Road Statistics Committee in FY 2025

西村 巧¹ 粕谷ひろみ²

Takumi NISHIMURA and Hiromi KASUYA

1 PIARC道路統計委員会について

世界道路協会（PIARC）は、4年間をひとつの戦略計画期間として活動し、道路統計委員会（以下、本委員会）は、前活動期間（2020～2023年）に正式な技術委員会として発足した。その背景には、多くの国で道路網の建設、老朽化した道路の維持・改修、交通安全などに対する投資の減少が予想される中、道路政策を適切に評価し、効果的に実施することの重要性がある。そのためには、道路及び道路交通の状況を把握し、可能であれば国際比較を行うための統計を道路分野の専門家が収集・分析することが重要である。PIARCは、道路分野の各国政府の代表者が多数参加する組織であり、信頼性の高いデータや情報の収集に適した枠組みと考えられる。

本委員会は、カナダ運輸省モハメッド・ヌイ氏が委員長を務めている。日本からは片平新日本技研 大西博文氏、国際建設技術協会 岡利幸氏、そして筆者が参加している。これに加え、フランス、オーストリア、アルジェリアなどからも政府機関の職員を中心とした委員が参加している。

前期は、PIARC加盟国を対象に統計調査を実施し、各国の回答をもとにPIARC Databook of Road and Road Transport 2020-2023 (2023) を発行した。高速道路や幹線道路の延長などの定量データや、政府の優先的政策などの定性データを含む7分野11項目の統計を整理した。また、人口や面積など各国基礎統計も踏まえ高速道路の整備状況などについて比較分析を行った。

2 第3回会議 (2025年4月フランス・リール)

今期（2024～2027年）第3回となる本委員会の会議は、2025年4月14～16日にフランス北部リール市にある環境・交通・景観・リスク問題研究所（CEREMA）で開催された。冒頭、パリに本部を置くOECD国際交通フォーラム（ITF）の統計担当者から統計データの収集方法や

データ分析方法についてプレゼンがあり、継続的な統計収集について有益な情報を得た。本委員会の統計調査については、指標の選定、その定義の設定について確認・調整が行われた。また、設計中の調査票を加盟国に配布して回答を促し、適切な時期にリマインドを実施するとともに、ウェビナーを3カ国語で計4回開催し、調査の重要性、回答方法、質疑応答のガイダンスを実施することが確認された。収集する回答は、集計・検証・分析を進め、オンライン会議や次回以降の会議で引き続き検討することとした。

調査票は、前期の調査ではExcelの調査票をメールに添付して加盟国に送付し回答を収集したが、今回は質問項目がさらに増加した。このため、筆者は統計値をExcel

表－1 PIARC Road Databook の指標

主な分野	指標
インフラ	高速道路延長
	主要幹線道路延長
	*その他の道路延長
	橋梁延長
	トンネル延長
自動車	自動車保有台数
	*エコカー保有台数
	*運転免許保有者数
交通	年間自動車走行台キロ
	*交通機関別旅客輸送分担
	*交通機関別貨物輸送分担
安全	交通事故死者数
予算	投資と維持管理
環境・エネルギー	自動車燃料消費量
	*1キロあたり自動車CO ₂ 排出量
行政	道路政策
	*道路技術基準
	*情報収集・提供方法

*：今期追加された指標

¹ 交通・社会経済部門 主幹研究員兼グループマネジャー ² 交通・社会経済部門 研究員

のような表形式でオンライン入力できるLimeSurveyを用いた調査票を設計した。これにより、加盟国はウェブ上でも回答することが可能になり、本委員会による集計作業も効率化された。

今期調査で収集する、道路に関する7つの主な分野とそこから選定した18指標を表-1に示す。前期のデータブックの特徴を維持し、11指標を継承しつつ、7指標を新たに加えて18指標に拡大している。うち、定性指標は前期からの道路政策に加え、新たに道路技術基準及び情報収集・提供方法を選定し、計3指標とした。



写真-1 PIARC 統計委員会メンバー、CEREMA 職員と
典) CEREMA HP (<https://www.cerema.fr>)

3 第4回会議 (2025年10月東京)

2025年10月には、海外からの委員も迎えて、東京で第4回会議が開催された。統計調査については、加盟国に依頼するアンケート調査票は既に配布され、その回収状況を共有し、回収率の改善策などについて話し合われた。

4 第5回会議 (2026年3月フランス・シャンベリー)

2026年3月に開催されたPIARCシャンベリー冬期大会(フランス)に合わせて本委員会の第5回会議が行われた。アンケート調査により収集した加盟各国の指標データや情報を検証・分析して、最終報告書の編纂に向け、引き続き作業を継続する方針が確認された。今期は、多くの指標について、数値データだけでなく当該指標に関連する情報も収集している。これは、各国の制度や道路分類など、数値の背景にある条件を明らかにし、指標データを適切に比較・解釈できるようにするためである。例えば、高速道路延長については、延長データに加え、高速道路のタイプ、道路管理者、有料・無料の別などを関連情報として収集している。

5 シャンベリー冬期大会 技術セッション

PIARC冬期大会では、本委員会による「道路統計の進化」をテーマとした技術セッションも開催された。同セッションでは、各国・各機関で道路統計が整備されている中で、道路統計はどのような役割を果たすべきか、また今後どのように発展していくべきかについて、90分にわたり討議された。

セッション前半は、大会に応募された論文から、モロッコのOverview of Road Infrastructure in Moroccoの研究概要が紹介された。輸送の80%以上を道路交通が占める同国で、新たに整備される高速道路により発展が見込まれる地域と、舗装道路へのアクセスが乏しい農村部との格差を踏まえ、道路網改善への投資が提言された。また、アルゼンチン・サンファン国立大学フェルナンデス氏から Evolution of Level of Service on Road Networks と題し、ニューラルネットワーク・モデルを使った高速道路のサービスレベル予測手法が紹介された。

セッション後半は、道路統計の進化をテーマとしたラウンドテーブルが実施された。本委員会メンバーにより、道路統計が果たすべき役割や、今後どのように進化していくべきかについて討議された。討議では、選定すべき指標とその定義、定性的データ・情報の把握、指標に関する分析や関連情報の収集、指標データ・情報の収集方法など多様な観点から意見交換が行われた。

PIARCには橋梁やトンネルに関する技術委員会もあり、今後の連携により道路統計の充実が期待される。2027年10月のバンクーバー世界道路会議では、技術セッションの枠は3時間に拡大され、より多様な専門家による討議が予定されている。



写真-2 技術セッションの様子(筆者撮影)